

～ 最期まで自分らしく笑顔で過ごせる島を目指して ～

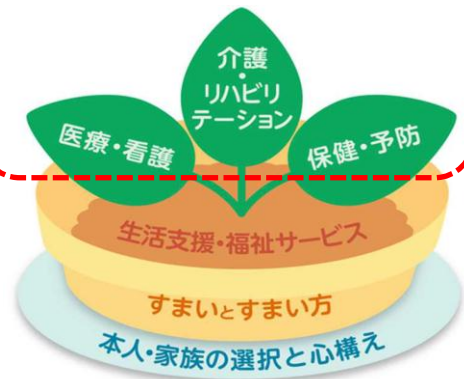
■ 医療・介護連携推進事業について ■

徳之島では、平成24年から、「ターミナルケア検討会」として在宅ケアに関わる関係者が集まり、在宅での支援に関して意見交換や事例検討などを実施していました。

平成27年度より、改正介護保険において、各町が実施すべき事業として「在宅介護・医療連携推進事業」が位置付けられたことから、引き続き3町連携のもとに事業を発展・充実させて実施することとしました。

この事業を実施することで、地域包括ケアシステム構築に向けて重要な要素である在宅医療と介護との一体的な提供ができることを目標としています。さらに、最終的には、必要とするすべての人が在宅での医療ケアを受けることができ、本人・家族の選択のもとに、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができることを目指すものです。

医療・介護連携推進事業による強化！



地域包括ケアシステム（植木鉢図）

第1回 在宅医療・介護連携推進事業検討会

平成27年7月22日(水)19:00～21:00 徳之島町社会福祉協議会

徳之島での在宅医療・介護連携推進に関して、地域でどのような課題があり、今後どのように取り組んでいくのかをみんなで考えていく機会として、島内の医療・介護の関係者に参加していただき、検討会を開催しました。当日は島内の関係者45名が参加し、各グループで熱心に意見を出し合っていました。

グループ協議の前に、「地域医療活動報告」として、長年、地域医療に携わっておられる宮上先生より、医療の立場から介護との連携、地域の将来像を踏まえた地域包括ケアの推進について、お話しいただきました。

(1) 地域医療活動報告

宮上寛之先生

「医療と介護の連携～地域包括ケアの推進に向けて～」

(講話要旨)

- ・人口減、高齢率上昇の中で、医療・看護・介護に携わる人材の確保・育成が重要。
- ・地域包括ケアシステム (Aging in Place) のために医療と介護の連携は必要不可欠である。
- ・「本人と家族の心構え」自分が75歳になったとき、配偶者が亡くなった時、どこで住み、どういう生き方をするか、自分の最後をどのように迎えるかを考え、家族と話し合っておく。



- ・ CureからCareへ、多職種連携が要
- ・ 在宅医療における死亡診断書、医師・歯科医師との協力体制を

- ・ THP（トータルヘルスプランナー）医療と生活を支える視点を持ち、患者・家族の一番身近な存在である看護師（等）THPの視点を持つ人材育成が必要。
- ・ 顔の見える連携「失敗しても許しあえる」関係づくりを！
- ・ 在宅での看取り事例、個々への対応とともに各団体の様々な取り組みを今後も進めていく。
- ・ 「徳之島だからできる」地域包括ケアシステムをみんなで検討しましょう！

(2)分科会(ワーキンググループ)

3つのテーマ（①医療と介護の連携②チームケアの構築③地域住民の理解・地域での支援体制）について、6グループで話し合いを行いました。

<検討会まとめ>

■昨年度からの進歩(よかった点・改善点)■

○病院内の連携及び体制の強化につながった。

- ・ 退院調整について、早めに病棟看護師からケアマネジャーへ連絡がくるようになった。
- ・ 院内での連携が取れていなかったが、自分からも病棟に出向くようになり、病棟からも情報が入るようになった（訪問看護）

○他機関や他職種との連携がしやすくなった。

- ・ 多職種協働カンファレンスを行ったことで、ヘルパーや通所スタッフから、本人の身体状況のちょっとした変化の気づきについて情報が入るようになった。
- ・ 調剤薬局からの情報が来るようになって、受け持ちの内服変更や飲み忘れなどの状況が把握できるようになってきた。



■ 医療と介護の連携について（1・2G）■

<介護側の課題>

○介護側の医療に対する知識・理解の不足

- ・ ケアマネジャーからみると、医師との連携が難しい。
- ・ 介護認定を受けていない方（総合事業）や、訪問看護を利用していない方の医療情報の確認や入退院時の連絡等が難しい。

<医療側の課題>

○医療機関側の体制、介護制度や在宅移行への知識・理解の不足

- ・ 院内の連携体制の検討が必要なのではないか・・・タイムリーな情報共有を行うには！！
- ・ 入院時のチームカンファレンスをもっと増やしていきたい

<連携・窓口機能の課題>

- ・ お互いがお互いの仕事内容を理解していないのでは？
- ・ 認定が決まる前の退院や施設への移行があり、対応に困る。
- ・ 情報が少ないまま支援しないといけない状況の時が困る。

<今後の取組・必要なこと>

○お互いを知ること、研修・学習

- ・ 施設や医療の対応できる範囲や業務について情報を取りまとめ、共有する。
- ・ 病院の相談窓口を明確にする。誰に・どんな時間帯に・どのような手段で（電話やFAX）連絡すればいいのか、一覧表にして共有していく。
- ・ 医療側には介護について、介護側には医療について学べる研修や場を持つ。

○医療機関での退院支援体制の強化

- ・入院時から退院、在宅の視点をもって看護が提供できるように！
- ・入院時、退院時の情報共有、カンファレンスの充実に向けての取り組みを強化する。
- ・入院時・退院時のカンファレンス！！まずは、今いるメンバーで職種・業務の垣根を越えて情報の共有をしながら、チームで患者が在宅（退院）に戻れるように支援をしていくことが必要。

徳之島では、お互いの職種・垣根を越えた支援が行えるはず！！

■ 多職種連携・チームケア(3・4・5G) ■

～チームケアの中心は利用者本人～

<現状・課題>

○情報共有と連携

- ・同職場以外の方との連携がまだまだ取れていないのでは？

○多職種の関わり・チームケア

- ・退院後施設やデイサービス等にリハビリスタッフがいない時の情報提供が出来ていない。
- ・患者さんの在宅での生活状況が見えず（ケア等ついていない場合）リハビリの目標設定が難しい
- ・お薬手帳(全国共通で使える手帳)の必要性があまり周知されていない。
- ・介護度の変更やケアマネがいつ変更になったか情報が届かない。(調剤薬局)
- ・住民はもちろん専門職であっても、口腔ケアの重要性は理解していても取り組みに至っていない。



○本人を中心としたケア体制

- ・担当している方が今後どのようにして暮らしていきたいのか？自分の考えをおしつけていないか？と思う事がある。（本人は帰りたい。医療関係者からは難しいと言われることもある）帰りたい時に不安があるときはどうしたらいいか？

<今後の取り組み・必要な事>

○チームで関わっていくための情報共有の仕組みづくりと活用

- ・チームで関わるためには情報共有のシステムが必要（全職種）
- ・在宅支援するためには顔の見える関係づくりを
- ・タイムリーな情報共有手段の統一化

○多職種連携に関わる検討会、研修会、勉強会

- ・介護の分野にも、医療の分野にも自分たちの持っている情報をもっとアピールすること！！（お互いの理解）
- ・勉強会や研修会を開催し情報の共有とお互いの理解を深める
- ・検討会や勉強会を通してチームケアのベースアップが必要ではないか。

○歯科やリハ職、薬剤師との連携強化

- ・看護や介護の一連のアセスメントの中で口腔のアセスメントまで行えるような様式を検討する。

■ 住民の理解・地域のサポート体制(6G) ■



徳之島町生活応援隊(ボランティア)養成教室

<現状・課題>

○在宅ケアへの理解、意識

- ・在宅へ帰りたいが、施設希望が多い。
- ・重複受診があり、決まった「かかりつけ医」がいない人がいる。服薬などの調整が難しい。

○地域での支援体制

- ・高齢者世帯が多く、地域での介護力・支える限界を感じる(老々介護)
- ・夜間や休日の対応について、家族や本人の不安がある。

<今後の取組み・必要なこと>

最終目標:最期をどこで過ごしたいのか考えた時に在宅ということが選択肢の一つとして考えられるように地域住民へ周知広報を行う。

○在宅ケアへの理解、意識づくり

- ・基本は家(在宅)での生活なんだということすべての機関(病院・施設・行政 etc.)が言い続ける必要がある。
- ・各家庭で老後や病気になった時の備え話をしておくことも大事



浅間集落 地域サロン活動

・取組としては、まず周知広報活動としてパンフレットを作成し住民に配布する。また、それぞれが在宅医療に向けた取組をしているが住民が知らないことが多い。そのため広報誌を活用し取り組みの紹介を行う。次に、入院時や相談対応時に十分話を聞き、対象に応じて在宅医療について繰り返し継続して説明していく。

・若い世代を含め実際に親の介護や家族の最期に直面しないと、介護や看取りについて在宅医療について考えない。実際に直面するとパニックになってしまう。そのため、学校や青年団等の活動を活用して死生観・在宅医療について考えるきっかけづくりを行う必要がある。

○地域での支援体制の充実

- ・地域での介護力を高められるような取組を継続。
- ・在宅医療を選択肢として考えられるためには、支える人が安心できるシステム作りが大切で、使えるサービス、制度についての理解が得られるような普及活動が大事。

【編集後記】

今年度から新たに開始された当事業。検討会の中で繰り返し出されていたように、情報提供・共有、啓発活動がとても大切であり、まずは関係者で情報共有すること、お互いを知っていくことが必要と感じました。そこで、今年度から、会議等に参加できなかった方も、事業の内容や取組、実施状況などについて共有できるように、「スマイルライフ通信」を配信していきます。

第1回は検討会の内容を紹介します。今後、関係者や多職種の声拾って発信できれば良いかと思えます。みんなで作り上げる「地域包括ケアシステム」を目指して！

【事務局：徳之島町地域包括支援センター】